

2010年度聖望学園中学校・高等学校 学校評価

	評価項目	自己評価	達成度	学校関係者評価	第三者評価
1	基本統計 ・学校要覧の発行状況 ・基本統計管理の状況	・学校要覧の発行状況は予定の6月には発行できた。 ・基本統計の管理では、教務ではスコールにて調査書、指導要録の管理を行い、不備なく管理ができた。生徒部では指導記録を各学年ごとに集計できていた。募集広報部においては、過去5カ年間の入試データの蓄積ができ、有効に活用することができていた。	B	基本統計の管理がしっかり出来ているのは良いことです。今後も引き続き基本データがしっかり管理して戴き、有効に活用出来るようお願いいたします。	・学校要覧は、教育方針・教育目標、沿革、校舎・施設等の基本情報、学生の教育課程・教材・日課等の教育環境、教職体制や運営体制に関してコンパクトに必要な情報がまとめられている。 ・基礎統計に関しては、学校の記録の蓄積と現状の評価のための資料とすることを目的としており、進路指導においても活用され、効果を上げている。
2	中期・単年経営計画 ・生徒募集状況 ・教員研修状況 ・5Sの状況 ・CO2削減状況 ・キャリア教育の状況	・生徒募集の結果は中学72名、高校334名の新入生が入学した。中学校では定員が確保できなかった。高校では定員を上まわったものの、中学の募集活動では課題が残った。 ・教員研修は、年々充実している。教務では新学習指導要領に伴う研修会に参加。進路では多くの教員が、予備校等主催の研修会に参加し、大学受験指導に向けての知識の吸収および各教科のレベルアップを図り生徒への還元を力を注いでいた。しかし、生徒指導、募集に関しては課題が残った。 ・CO2の削減については、ゴミの分別、トイレの電燈の自動消灯化などが取り入れられたが、それ以外の電燈消灯の徹底ができていなかった。 ・キャリア教育においては特別委員会が設置され、その指導計画に基づいて実施された。具体的には、高校1年生で「職業レポート」の作成、高校2年生では「施設訪問」である。高校2年生の施設訪問は次年度別のプログラムを検討中である。	B	・中学校の定員が確保出来なかった要因を調査分析し、次年度へ活かして欲しいと思います。これだけ厳しい経済状況が続いているので、公立志望が増えていると思われます。故に伝統ある本校の特徴を十分活かすようなPRが、従来以上に求められると判断します。 ・教員研修が充実しているのは素晴らしいことです。引き続き研修会などには積極的に参加して頂き、充実させて下さい。 ・CO2の削減は、今や国際的な問題です。もっと積極的な姿勢で取り組んで欲しいです。本校は私有林を借りて、森林体験が容易に出来る環境が揃っているのだから、CO2削減を取り入れた課題教育に是非活用して欲しい。	・中学校が定員を確保できなかった原因を明確に把握すること。その意味で、入学者層の個別の要望を把握することは不可欠で、教職員の課題の共有化と方針の合意を進める必要がある。さらに、中学における人間教育、人格教育の成果を明らかにすること。多くなった中高一貫の中で、聖望学園の教育の効果を具体的に明らかにすることが、より一層求められる。まずは、学校説明会への参加者の増加と、参加者の受験率の向上を図りたい。 ・予備校等への教員研修への参加者が年々増加しており、各教員がスキルアップを図っている。学校もそれを支援しており、十分評価する。また学内の教員による授業参観（オープンクラス）も実施しており、大いに評価できることである。今後は、外部研修への参加者、学内授業への参加者を増やす努力を進めるとともに、教科ごとだけでなく、学校内における情報の共有化をいっそう進められたい。 ・教職員の能力の向上と、教育力の強化を図るため、マネジメント（組織人としての役割等）に関わる研修を加え、体系的な研修計画をたて、さらにOJT、SD(self-development, staff-development)システムの構築が望まれる。 ・環境管理部は、修繕、設備の改善に関して、十分な成果を得たが、掃除の徹底については、依然として継続的課題とされており、学校全体の取り組みが求められる。特に東日本大震災から、環境の大切さを実感しており、環境教育の普及が急がれる。 ・キャリア教育特別委員会の報告を全体で共有すべきである。
3	組織運営 ・責任体制の整備状況 ・経理状況 ・情報管理状況(個人情報を含む)	・責任体制の整備状況では、各分掌で部長、委員長を中心に分担が明確化にされ、責任の所在がはっきりしてきた。 ・個人情報などの情報管理は、教務部は学校共有PCの共有ファイルの整理を行い情報管理の向上に努めた。	B	学校長を中心に、管理職、事務長等の努力により現行組織は良く纏まっている印象を受けます。組織が弊害となることは良くある話ですが、本校に限ってはこれからも組織が弊害とならないように円滑な機能運営を望みます。	・組織運営に関して、校長、教頭、事務長による調整が行われており、課題に対しては明確に対応している。今後も、現実に個別課題に対応する教員の責任の範囲、権限の範囲をより具体的にし、それを組織として支える体制を構築することが望まれる。 ・生徒に関する学籍、成績等の基本情報について、「取り扱いに関するガイドライン」を設けている。今後も、研修や日常的申し送り等を通して、個人情報保護の徹底を図り、かつガイドラインの内容を継続的に見直すことを期待したい。 ・ステージ制における管理職による適材適所の人事配置、定期的な主任会、部長会の開催がなされており、決定の迅速化、適正化をよりすすめられたい。
4	施設・設備 ・施設、設備の活用と整備の状況 ・施設、設備の点検状況	・環境管理部が中心となって、清掃状況の確認や教室備品の整備などが組織的に行われていた。今年度は特にゴミの分別の徹底を目標としていたが、プラゴミの分別に課題が残った。年度当初の下足箱、机椅子等の整備は組織的に行われスムーズに新年度を迎えられた。情報図書においては、新たに自習室に映像機器を設置し多くの利用があった。他の既存の映像設備においても点検、整備も定期的に行われており、多くの利用に役立っている。今年度、大型教室における映像機器を入れ替え更に利用しやすくなった。	B	大型教室の映像機器を入れ替え、更に充実した設備が整った。施設や設備は費用が掛るものである。営利を第一に求める訳ではないが、ある程度の費用対効果を考慮した導入を望む。	・清掃等に関しては、2で述べた通りである ・自習室の映像機器の設置し、他の既存の映像設備においても点検、整備、大型教室における映像機器を入れ替え等、視聴覚機材が充実できたことを評価する。 ・運動部寮と多目的ホールが完成し、学生の学習環境の向上に努めており、評価できる。

		また、今年度、運動部寮と多目的ホールが完成し有効利用できている。			
5	宗教教育 ・宗教教育の状況 ・宗教的諸活動の状況	・宗教委員会では、学校礼拝における英語礼拝、キリスト教強調週間の実施やクリスマスツリー点火式の拡大継続に重点を置いて活動してきた。クリスマスツリー点火式においては、本校関係者のみならず、近隣の人たちも多く参加し目標を達成できた。	A	人間関係の希薄さが何かと取り上げられる昨今は、キリスト教を通じて相手を思いやる教育方針は大変貴重であり、本校の特長だと思います。 又、最近ほどの学校も学力UPに偏重する傾向が見られますが、人としてもっと大切なものがあるはずで。今後も聖望学園らしさを忘れずに、人としての教育と学力向上とのバランスの取れた指導であって欲しいと思います。 先生方の地道なご努力に感謝を申し上げます。	・キリスト教教育を通して、学生が隣人愛、人間の理解を深め、人格的に成長していくことを期待したい。特に、東日本大震災以降、生命の大切さ、互いを認め合い、支え合い、理解し合うことの大切さが理解されてきており、キリスト教教育の使命も大きい ・なお、キリスト教行事を通して生徒、教員、保護者の方々へ聖望学園のミッションの理解を深める方針を支持する。
6	教育課程・学習状況 ・教育課程の実施状況 ・学習指導の状況 ・成績の状況	・教務部ではシラバスを予定通り 4 月に発行することができた。各教科はそれにそって授業を展開しており、各教科でシラバスの達成状況を確認した。新学習指導要領への取り組みが未だ十分でなく来年度への課題として残った。 ・学習状況としては、成績面では昨年度と同じ程度であるが、さらなる上昇が求められる。学業特奨生のZ会添削指導ではより充実した内容が実施できた。	B	先生方の熱意により、レベルの高い授業に取り組んでいるのが伝わって来ます。又、生徒への面倒も良く見てくれていると思います。・生徒達はそれに頼り過ぎること無く、自覚を持って勉強に部活に打ち込ませたいと思います。	・今年も、シラバスをつくり、学生全員に配布している。シラバスは教員の授業方針、教育方法の確認に役立っているだけでなく、生徒が授業を体系的に理解し、予習等に役立てる機会を提供していることを評価する。なお、記述に関して、目標・方法・評価等の書き方をより統一的に整理し、学生の理解を促進することを検討していただきたい。
7	部活・行事 ・部活動の状況 ・行事の実施状況	・部活動の自己評価報告は、本年度は実施しなかった。次年度への課題である。 ・国際交流委員会ではアメリカへのサマースクールは 8 名の参加で実施した。また、オーストラリアへの短期留学は東日本大震災の影響で生徒の安全を考慮し止む無く中止とした。姉妹校であるオーストラリアのフェイスルーテル高校との間で1名の長期交換留学がじっしできた。 毎年のことながら、ホストファミリーの確保が困難で状況であり、今後の課題である。 ・森林環境委員会では、森林体験教室（各回 30～40 名の参加）、Eco Forest Day を担当し予定通り実施できた。Eco Forest Day では生徒 90 名、教職員 10 名の参加者があった。 本年度は入間地区の保護者より講演会と森林体験教室の依頼があり保護者対象の行事を初めて実施した。	A	部活や学校行事は生徒達が主役になれる場であり、保護者としても子供達の生きいきした姿を見るのは楽しみです。活動を充実する上で、出来る限りの力添えは惜しみません。 子供達の成長過程に於ける人間形成に、大きく影響しますので、生徒みんなが積極的に参加してもらいたい。 先生方のご努力も有り難く思っています。	・日本全体が、内向きになっている現在、聖望学園の伝統的教育である、国際交流が進まない現状にある。是非関係校の共同実施も含めた方法の検討をされたい。 ・森林体験教室（各回 30～40 名の参加）、Eco Forest Day を担当し予定通り実施できたこと、また保護者対象の行事が行われたことを評価したい。
8	生徒指導・カウンセリング ・生徒指導体制の状況 ・カウンセリング活動の状況	・生徒指導については、生徒指導委員会が作成したマニュアルに沿ってどの教員でも同じ指導ができる体制は整えてある。しかし、より統一的生徒への指導が課題である ・教育相談委員会は、相談室での生徒との対応し、担任教師との連絡を密にとっていた。	A	近年は、子供の世界でも携帯やネットなどで多様化する陰湿ないじめがあるのは事実であると思います。本校でも他人事と捉えず、地道に生徒指導やメンタル面での対応をお願いしたい。一見するとカウンセリングは地味な役割であるが、生徒達が楽しい学校生活を送るためには絶対に必要です。日頃から、生徒、先生、保護者間のコミュニケーションを大切にしたいです。	・指導方針は明確であり、生徒指導委員長を中心に、その方針にそって指導していることを評価する。なお、個別的事例に照らして、たえず教員が共通の認識にたてるよう、継続的な確認作業を進めて頂きたい。なお、学生の生活の問題と成績は連動しており、担任を軸にしながら、学年主任、生徒指導委員会、カウンセリング委員会等の協議の上で、今後も進められたい。 ・学校内で、目標を共有化し、各教職員の役割と責任を明確化し、合意するサイクルが大切である。退学者数の減少は、各学校の課題であり、聖望学園での取り組みを教育力向上の取り組みに位置づけ、具体化する必要がある。

9	進路指導 ・進路指導体制の状況 ・進路結果	・進路指導については、進路指導部を中心に体制が確立しつつある。次年度には指導マニュアルを作成する予定である。 ・進路結果については、昨年度並みであるが、目標から考えると満足な結果とは言えない。	B	本校は大学進学を希望する生徒が大半を占めるが、大学生の就職活動は益々厳しさを増している。 そこで提案したいのだが、生徒達が自己の目標を達成するためには少なくとも高校生のときから職業を意識させる更なる教育が必要ではないか？ ご検討をお願い出来ればと存じます。	・進路指導の成果については、十分評価するものであり、指導マニュアルに対する期待も大きい。その結果、SDCA（基準→実施→チェック→対応）サイクルとPDCA（計画→実施→チェック→対応）サイクルによる教育力を強化していくことが可能となる。なお、どのように学生の適性を活かし、各自の能力を伸ばしていくかという基本的な視点と、受験の実績との調和が、今後も図られていくことを望みたい。
10	安全管理 ・学校安全計画の状況 ・危機管理マニュアルの作成、活用状況 ・学校防災計画の作成、実施状況	・安全管理について、総合防災訓練を1回実施した。 ・危機管理マニュアルの作成配布も予定通り行われた。 ・デジタルなま々が導入されており、緊急地震速報が校内の全員に連絡でき、早期の地震に対する構え、避難ができた。	B	従来からの施設・設備も去ることながら、3月に発生した東日本大震災は、日頃から防災に対する備えを見直すキッカケになると思います。 いざと云う場合に、人命を第一に考えた防災設備が充実されるようお願い致します。	・安全・緊急マニュアルが具体的で、評価できる。これが全教員にどのように理解されているか、継続的な訓練と検証が必要とされる。
11	保健管理 ・学校保健計画の作成、実施状況 ・健康診断の実施状況	・学校保健計画、健康診断の実施は養護教諭により行われた。	A	学校保健計画に沿った取り組みをお願いします。	
12	特別支援教育 ・特別支援生徒への対応状況	・カウンセリング委員会を中心に、相談等を実施した。	A	出来るだけ幅広い相談事に対応出来るようお願い致します。	・カウンセリング委員会が中心となり、相談を行っていることを評価する。なお、外部の医療機関、保健福祉機関との連携と、学内における協働の支援体制が大切であり、個別援助計画の作成と実施において、連携を念頭に考えられたい。
13	保護者・同窓生との連携 ・保護者会の状況 ・地区集会の状況 ・同窓会との連携状況	・学年毎保護者会を行い、必要な意見交換が行われている。後援会が行っている地区集会にも教員が参加し、保護者との交流及び意見交換が行われた。同窓会には学校での現状を報告している。また同窓会からは、学業や部活において一定の評価を得た生徒に対し、奨励賞が贈られている。	B	PTA 後援会の各種活動に対する学校側の対応に、学校長を初めとする協力は素晴らしいと思います。これからも学校、保護者間の連携を取りながら信頼関係を深めていきたいと思っています。	・同窓会の支援は、聖望学園の伝統であり、この関係を強化することによって、入学者の確保、教育基盤の強化が期待される。同窓会からは、学業や部活において一定の評価を得た生徒に対し、奨励賞が贈られており、今後も同窓会との連携を堅持されたい。
	総合評価			生徒募集に営業意識を持ち込むのは良くないが、私立の他の競合校についてもっと研究しても良いのではないか。特に中学受験生は、塾からの情報にかなり影響を受けると聞きます。本校の事をもっと塾にも知って貰う必要はありませんか？ 又、経済状況はまだ暫く不透明感が続く予想です。奨学制度を充実させるのも、PRになると思います。	評価制度を導入することによって、現状の教育活動の指針として活用していること、また、前年度の踏襲ではなく、状況の分析をするという視点が教職員に芽生えていることは、昨年同様、自己評価の各項目から十分評価できることである。しかし、自己評価の基準の違いも見られ、辛い評価になっているものも散見される。評価については、プロセス評価、タスク評価（目標値と達成度）など、評価基準や評価方法を検討し、聖望学園の教育力のさらなる向上に努めていただきたい。